

Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

新春講演会開催

講演する尾田先生



講演後の懇親会風景



当協会恒例の新春講演会は、曇り空の1月28日(日)14:30より、昨年夏にチター演奏会を催した、JR西千葉駅近くの「ニュー中華白ちょう」で行われた。講師は、当協会理事で御茶ノ水女子大学名誉教授の尾田幸雄先生。先生のご専門の哲学に関して「日本とドイツの哲学交流」という演題でお願いした。聴講希望者は、当初の予定より大分多く、座席の不足が心配されたが、曇天ということもあり、欠席者も出て、結局32名で満席となった。要旨は下記のとおり、日独哲学研究交流史であったが、終わりに近づくに従い、最近我が国で問題になっている、「イジメ」や「子供の虐待」「自殺」などの問題にも触れていただき、なかなか興味のある内容であった。

講演会終了後に事務局には、「尾田先生には簡単な『哲学入門』講座を開講して欲しい」との希望も寄せられている。今後、事務局でも検討してみたいと考えている。

「日本とドイツの哲学交流」

御茶ノ水女子大学名誉教授
千葉県日独協会理事 尾田 幸雄

日本における西洋哲学の受容の歴史は、西村茂樹、西周、中村正直、福沢諭吉、加藤弘之、森有礼などの明六社(明治六年設立)の人々の活躍と共に始まりました。特にドイツの受容については、東京大学哲学科の初代主任教授井上哲次郎がドイツに留学し、弟子達を次々とドイツに送り込んだことが大きく影響しています。当時のドイツの哲学界ではカント哲学を再評価しようという新カント派の全盛時代でしたから、我が国で旧制高校や大学予科でドイツ語が必修だったことと相俟って、「哲学はドイツ」というのが通り相場となりました。分かっても分からなくても岩波文庫のカント『純粹理性批判』などを高校生が持ち歩くことが流行したのもこの頃です。しかし、これでは日独哲学交流と言っても、実態は「一方交通」です。一九七五年の夏、ケルンの日本文化会館で開催された「日独哲学者シンポジウム」で発起人の一人、O・F・ボルノウ(テュービンゲン大学名誉教授)は、基調講演の中で、「日本の研究者達はドイツの哲学について実に良く研究しているのに、ドイツの研究者で日本の哲学について知っている者は殆ど皆無である。これからは、日独の共通課題について忌憚なく意見を交換できるように努めなければならぬ」と述べました。確かに、かつてドイツでギリシャ古典に憧れるグレコマニアが存在したように、日本でもドイツをゲート・シラー・バツハ・ベートーベン・カント・ヘーゲルの国と憧れるゲルマノマニア(あるいはテデスコマニア)が沢山います。両国は文化と伝統を異にするとはいえ、一九四五年以来六十年に及ぶ敗戦国としての共通体験を経て、様々な分野でのクリーゼ(危機)に直面しています。共通課題について忌憚なく意見の交換が出来る筈はありません。危機は正に明るい未来への転機です。

以上

～今後の催物案内～

1. 2007年度総会

日時：2007年5月19日(土)

14：30～17：30

場所：フローラ西船(JR 総武線西船橋駅
より徒歩3分

(TEL：0120-262427)

式次第：総会 14：30～15：00

講演 15：10～16：00

講師 ドイツ大使館関係者

演題 後日

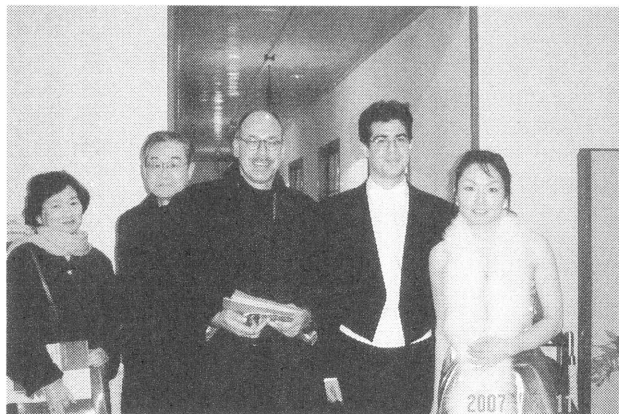
懇親会 16：10～17：30

会費：5,000円

高橋麻里子・Thomas Garcia デュオコンサート

(後援：ドイツ大使館、(財)日独協会、当協会)

当協会の会員、高橋麻里子さんと高橋さんがイスから招聘した、若手ヴァイオリニスト、トーマス・ガルシア氏とのデュオコンサートは冬晴れの2月11日(日)に上野奏楽堂にて18：30より開催された。ガルシア氏は、ドイツ国立ミュンヘン音楽大学のコンサート・ソリスト学位を最優秀で取得、現在はチューリヒ・トーンハレ管弦楽団団員として欧州、ラテンアメリカ等で活躍中。一方の高橋さんもドイツ国家演奏家資格を最優秀賞で取得しており「二人の演奏は時間と共に息がぴったりと合ってとても良かった」「演奏の技術は兩人共素晴らしく感動した」(コンサートマニアの会員)といった高い評価が多く聞かれた。尚、当日はドイツ大使館からシュミット参事官、トーカーラー書記官夫妻とお嬢さんも来場され、平尾会長夫妻等と共に熱心に聞き入っておられた。



右より高橋さん、ガルシア氏、シュミット参事官、平尾会長夫妻

千葉県日独協会主催

第3回「ドイツ文学読書会」のお知らせ

当協会会員に大人気の、平尾会長を囲んでの春の「ドイツ文学読書会」は、下記の通り決定いたしましたのでお知らせ致します。初めて参加される方も大歓迎ですので、お気軽にお申し込み下さい。

記

講師：平尾 浩三 東京大学名誉教授

日程：4月 5日、12日、19日

5月 10日、17日、6月 7日、21日

時間：15：10～16：40

場所：船橋中央公民館

会費：3,500円(教材費は別で約1,000円)

教材：「Heinrich von Kempten」(裸の騎士)

問い合わせ先：館野 鷹二郎 047-485-9311

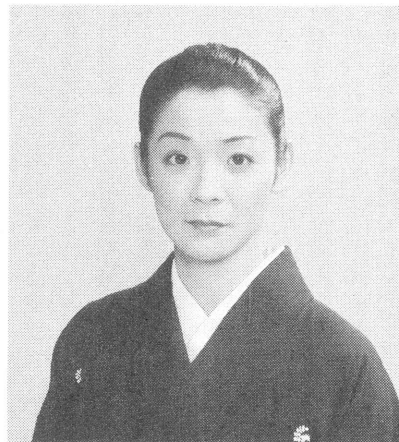
布施 由未子 047-424-7645

藤蔭静寿(しずひさ)さん

第5回千葉市芸術文化新人賞を受賞

この賞は、千葉市が「千葉文化を担う人づくり」を進める為に、平成14年度に創設したもの。昨年の応募者は音楽・舞踊・美術・文芸などの分野から16件の推薦があり、学識経験者などで構成する「市芸術文化新人賞選考委員会」が「今後全国的な水準での活躍が見込め、本市の芸術文化の振興に寄与することを期待できる者」という基準に沿って審議した上で、藤蔭静寿さん(本名：大嶋里衣子さん)に決定。2月9日に授賞式が行われて、市長から賞状が贈られた。

藤蔭さんプロフィール：2003年東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。藤蔭流家元藤蔭静枝氏に師事。古典舞踊に留まらず、現代創作舞踊にも挑戦し、日本舞踊の新しい世界を探求している。昨年1月の日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」で奨励賞を受賞。NHK 伝統和楽団の一員として海外公演も行う。



大嶋 里衣子(藤蔭 静寿)さん